

# い・せ・きワールド in 前橋 2011



はんちく  
版築

はんちく  
版築

はんちく  
版築

じゅうきよあと  
住居跡



↑ 山王廃寺伽藍配置想定図



はんちくたんめん  
版築断面

## 山王廃寺西回廊に隣接する基壇建物跡

さんのうはいしにししかいろう りんせつ きだんたてもものあと

### 用語解説

- ☆【回廊】 塔や金堂、講堂などを囲む屋根付の廊下。
- ☆【版築】 土止めの板の間に薄く土を盛り、棒で突き固めて層状に盛り上げる工法。中国・朝鮮半島を経由して日本にもたらされたと言われている。

☆版築の断面を見てみると、土が何層にも重なっている様子が分かりますね。この版築にはこぶしぐらいの大きさの石が混ぜられていました。

### 国史跡「山王廃寺跡」の調査について

山王廃寺は前橋市総社町に所在し、7世紀後半に建てられた、古代東国では最古級の寺院跡です。これまでの発掘調査や様々な発見によって約80m四方の回廊内に塔・金堂・講堂・中門を配置した立派な寺院であったことが分かってきました。平成20年3月には国史跡の追加指定を受け、史跡名も「山王塔址」から「山王廃寺跡」に変更されました。

前橋市教育委員会では、平成18年度から5カ年計画で山王廃寺の発掘調査を行っています。この調査では、寺院の諸施設やその周りの様子について、さらに詳しく調べることを目的としています。今年度は第5年次の調査として、回廊と寺域周辺の調査を行いました。寺院北東では建物跡と考えられる遺構と遺物が大量に出土した浅い溝状のくぼみが、寺域西側では寺院より古い住居がそれぞれ確認されました。また、塑像出土地の南側で掘立柱建物跡と集瓦遺構が確認されました。



# 平成22年度の発掘調査

今年度も前橋市のたくさんの場所で発掘調査が行われました。発掘調査では、住居・土坑・溝などの生活の跡や、おわん・かめ・つぼなどの道具がたくさん見つかりました。見つかったものをよく観察すると昔の人々がどのようにして生活していたかが分かります。

## 元総社蒼海遺跡群(32)～(37)

☆元総社地区では、前橋市が区画整理(新しい道路などをつくり、みんなの生活を便利にすること)に取り組んでいます。今年度も区画整理が行われる前に元総社地区の発掘調査を行いました。古墳～奈良、平安時代にかけての住居跡がたくさん見つかりました。

## 蒼海(32)

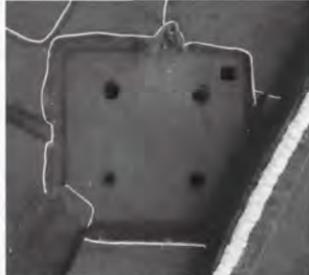
☆国府より古い時代(古墳時代)の住居、国府より新しい時代(平安時代)の住居が見つかりました。国府の近くであったために国府が仕事をしている時代には一般の人々は家をつくれな範囲であったと考えられます。とても深い蒼海城の堀跡が見つかりました。



↑ 蒼海城の堀跡



↑ カマド横から出土した甕



↑ 4本の柱穴や貯蔵穴がしっかりと残っていた住居跡

## 蒼海(33)



☆中世の土坑の中からほぼ全身の馬の骨が出土しました。この馬は現在の競争馬(サラブレッド)とは違い、大昔から日本に住んでいる日本固有の馬です。



↑ 下あごの部分の残りがとてもよく、歯もきちんと残っていました。

## ひとことプラス!

### 日本固有の馬の特徴

- ・肩までの高さの平均は130cm、体重400kg程度でありサラブレッドよりも小型。
- ・胸長短足であり、体の幅が広い。
- ・足腰が強く、踏ん張りがきくため斜面やぬかるみでも平気。
- ・盲腸が長く、太いため、草のみで飼育可能。
- ・性格はおとなしい。

元総社地区には、奈良・平安時代には国府(今でいう県庁)が、室町時代には蒼海城がありました。当時の政治の中心地でした。



## 山王廃寺跡

☆寺域南西部から出土した集瓦遺構(しゅうがいがこう)です。山王廃寺で使われていた多くの瓦が一ヶ所に集められて埋められていました。



↑ 上にかぶさっていた石や瓦の破片を取り除いてみるとほぼ完形の丸瓦が出てきました。

## 平成22年度前二子古墳石室復元市民プロジェクト



前二子古墳の石室は明治11年にあけられ、たくさんの副葬品(ふくそうひん)が発見されました。このプロジェクトは当時の石室の姿を再現(さいげん)しようとする市民参加型の事業です。

前二子古墳の石室から出土した須恵器小像付筒型器台とその仲間の土器を10月からボランティアのみなさんで制作し、12月に焼きました。



↑ 制作した土器を鼻毛石町の「一心窯」で焼きました。写真は焼成後の窯の中。



## 山王廃寺伽藍配置想定図



## 元総社蒼海遺跡群(32)～(37)

## 山王廃寺跡

## 前橋城(南曲輪地点)

☆江戸時代に建て直された前橋城「二の丸」の外堀が見つかりました。

## 六供遺跡群No.6

☆古墳時代の住居が見つかりました。

## 朝倉伊勢西遺跡

☆平安時代の住居が見つかりました。

## 蒼海(35)



☆地面にたくさんの穴があいていますね。これは粘土採掘坑(ねんどさいくつこう)で奈良・平安時代のもと考えられます。ここからとれる粘土を使って昔の人は建物の基礎(きそ)や土壁(つちかべ)をつくりました。

## 蒼海(34)

☆奈良・平安時代の住居が見つかりました。国分寺の基壇(きだん)で使われていたと考えられる石が住居のカマドに用いられていました。

## 蒼海(36)

☆古墳・平安時代の住居跡、水田跡、蒼海城の堀跡が見つかりました。

## 蒼海(37)

☆古墳・平安時代の住居跡が見つかりました。



☆「布堀」という特殊な工法でつくられた掘立柱建物。東西約5mの間に4本の柱が建てられました。使用した柱の長さがまちまちであったために穴の深さを調節して建物の水平をとりました。



☆高盤(こうばん)とよばれる土器です。国衙(こが)と呼ばれる役所で使われていたもので大変貴重なものです。

BC10000	BC200	AD300	710	794	1192	1338	1573	1603
縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	室町	安土桃山	江戸

## 平成22年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

遺跡名	所在地	主な時代
あさくらいせにし 朝倉伊勢西遺跡	朝倉町	平安時代
さんのうはいじ 山王廃寺跡	総社町総社	奈良・平安時代
まえばししょう(みなみくるわちてん) 前橋城(南曲輪地点)	大手町	平安、近世～近代
もとそうじやおうみ 元総社蒼海遺跡群(32)～(37)	元総社町	古墳、奈良、平安～中世
ろくく 六供遺跡群No.6	六供町	古墳、中・近世

こうずけこくふあと  
上野国府跡

↓ 人々にぎわう上野国府(想像図)



↑ 施設の名前が墨で書かれた土器(元総社寺田遺跡)



↑ 関越自動車道の調査で発見された国府の神社跡(鳥羽遺跡・復元)



↑ 当時の役人が使っていた文房具(復元品)



↑ 元総社公民館の調査で発見された大型建物跡(元総社蒼海9)

こうずけこくふ 上野国府は、古くから元総社町の総社神社周辺にあったと考えられます。近年の発掘調査で総社神社の東の牛池川から人形や「国厨」や「曹司」と書かれた墨書土器がたくさん見つかりました。また、関越自動車道をつくる時の発掘調査では国府の神社跡が発見されました。当時使われていた文房具なども発掘されています。これらのことから、総社神社から関越自動車道の一帯が、国府の範囲と推定されます。

現在、前橋市教育委員会では上野国府の解明を目的に、元総社蒼海地区で発掘調査を行っています。

- 用語解説**
- ☆【国厨】国厨が儀式や政治を行った建物や役人が働いていた役所、役人の家、兵士の宿舎、市場、学校、百姓の家などを含む全体の総称。
  - ☆【国厨】 役人の食事を提供する台所の施設。
  - ☆【曹司】 役所の建物の総称。



奈良時代(752年)



平安時代(928年)

国司という都から来た役人が仕事(今でいう県知事の仕事)で使っていた印鑑を復元してみました。



ひとことプラス!

645年の大化の改新以降、古代の律令国家は、現在の都道府県にあたる地方行政単位として全国を60余りの国に分け、大國、上國、中國、下國の4等級に格付けしました。上野国の範囲は、現在の群馬県とほぼ同じで、14の郡(今でいう市町村)を管轄する大國でした。



●問い合わせ●

平成23年3月31日発行 前橋市教育委員会文化財保護課  
前橋市三俣町二丁目10番地2 電話027-231-9875・9531 FAX027-231-9862  
<http://www.city.maebashi.gunma.jp/>  
Eメール [bunkazai@city.maebashi.gunma.jp](mailto:bunkazai@city.maebashi.gunma.jp)

